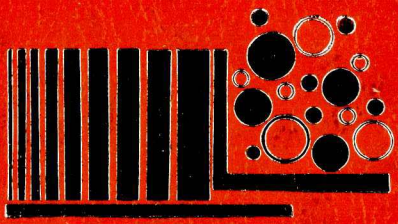
年刊現代詩集

'83下半期



芸風書院

年刊現代詩集 '83 (下)

1983年12月20日　発行　　¥ 3,000

編　者　年刊現代詩集編集委員会
発行者　萩　原　廸　夫
発行所　㈱ 芸 風 書 院内
年刊現代詩集編集委員会
東京都文京区本郷 1—15—4 文京尚学ビル
電　話　(03) 814 — 9591 (代)
振　替　東 京 0 — 47 84 1

表紙デザイン・さえきまこと　レイアウト・伊奈克平　印刷・㈱上野印刷所

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

年刊現代詩集'83(下)

—全国主要詩誌代表詩人集—

芸　風　書　院

年刊現代詩集新人賞
受賞作品及び受賞者

第一回新人賞

入選　「人魚」（年刊77所載）
　　山本美代子
　　神戸市。「日本詩人クラブ」「地球」「たうろす」所属。
　　「河太郎文」（年刊78所載）
　　廣岡昌子
　　交野市。「大阪現代詩人会」「交野詩話会」所属。

佳作　「嘔吐」（年刊77所載）
　　小松弘愛
　　高知市。「日本詩人クラブ」「兆」所属。
　　「風」（年刊78所載）
　　木下幸江
　　西宮市。
　　「ゼロの季節」（年刊77所載）
　　高橋和子
　　神奈川県山北町。「作家社」所属。

第二回新人賞

入選　「女犯不動」（年刊80上半期所載）
　　打田早苗
　　山形市。「東北詩人」所属。
　　「噂の耳」（年刊80上半期所載）
　　鈴木豊志夫
　　千葉市。「千葉現代詩人会」「光芒」所属。
　　「月と魚と女たち」（年刊79所載）
　　中野博子
　　大阪府。文芸誌「作家」所属。

佳作　「鳥」（年刊80上半期所載）
　　小松弘愛
　　高知市。「日本詩人クラブ」「兆」所属。
　　「ひがん花幻想」（年刊79所載）
　　鈴木操
　　前橋市。「芸象文学会」所属。
　　「不良志願」（年刊80上半期所載）
　　掛布知伸
　　名古屋市。「市民詩集の会」所属。
　　「私の夏は」（年刊79所載）
　　たかとう匡子
　　神戸市。「大阪現代詩人会」「第三紀層」「むとす」所属。

第三回新人賞

入選　「詩人偽証」（年刊81下半期所載）

そらやまたろう

宇都宮市。「栃木県詩人協会」「橋」所属。

「蜘蛛の糸」（年刊81下半期所載）

楫さわ子

福島市。「地球」「あぶくま詩の会」「北斗の会」所属。

佳作　「裏町どしらそふぁみれど」（年刊81上半期所載）

掛布知伸

名古屋市。「市民詩集の会」所属。

「水域から」（年刊81上半期所載）

岩佐なを

横浜市。「地球」「射撃祭」所属。

「アクリル」（年刊81上半期所載）

紫圭子

愛知県鳳来町。「孔雀船」「原始林」所属。

「ほたる火」（年刊81上半期所載）

原桐子

常陸太田市。「日本詩人クラブ」「白亜紀」「翼」所属。

「沈黙」（年刊81下半期所載）

若林光江

栃木県南河内町。「日本詩人クラブ」所属。

第四回新人賞

入選　「ストーン・サークル」（年刊82上半期所載）

紫圭子

新城市。「孔雀船」「原始林」所属。

佳作　「ぶち猫のドジ幽閉の五日間」（年刊82下半期所載）

えぬ・まさたか

兵庫県社町。「火皿」所属。

「サンクチュアリ＝聖域」（年刊82上半期所載）

坂本登美

福岡市。「汎芸神」所属。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「飛行論」（年刊82上半期所載）

綾部健二

宇都宮市。「橋」「地球」所属。

「落花」（年刊82下半期所載）

神崎崇

宮城県柴田町。「像」所属。

「あなたと私の穴について」（年刊82上半期所載）

渡辺真理子

船橋市。「光芒」所属。

「仮構の部屋」（年刊82下半期所載）

山田隆昭

東京江東区。「地平線」「風」所属。

年刊現代詩集84上半期要項

一、資　格　各文芸団体、同人誌に所属し、その主宰の推薦する方か、当年刊現代詩集編集委員会で推薦された方。

一、作　品　昭和五十八年七月一日から五十八年十二月三十一日迄に作られたもの。原稿の長さは原則として四〇〇字詰用紙三枚以内。

一、締　切　昭和五十九年一月三十一日（消印有効）

一、その他

(イ) 名称　「年刊現代詩集84上半期」

(ロ) 体裁　B6判　約五〇〇頁

(ハ) 予価　三、000円、発行六月十日

(ニ) 推薦され作品掲載を承諾された方は出版資金の一部として三冊以上の購入申込みをお願いします。（著者割引一冊　三、400円　梱包送料実費）

(ホ) 掲載された作品は第六回年刊現代詩集新人賞（入選・賞状及び賞金総額二〇万円、佳作・賞状及び記念品）の対象となります。

年刊現代詩集 '83（下）目次

丘の小道　安芸　信広…12
ふるさと　安藤　雅郎…12
沼の化身　安保　賢一…13
自戒像　青山　隆弘…14
忍びのうた　青木　秀夫…16
波の花　青木　守…17
海　秋　太郎…17
空転　秋元　炯…19
冬のあかり　秋山　末雄…20
蝶の道　天野　行雄…20
レプリカの独言　綾部　健二…22
戦友よ眠れるか　新井　均二…24
櫓を漕ぐ　井内　輝吉…25
きみえ・抄　井ノ迫忠男…26
まどろみ　伊藤　勲…27
ことばの墓場　飯野布志夫…28
熱帯夜　石川三恵子…29
狂詩　泉野　作雄…30
紗布　池山　吉彬…32
鈴がやんでいる　稲垣　尚…32
近親の食堂　岩佐　なを…34
雀たちよ　岩崎　直哉…35
抽象の花　宇野　雅詮…37
白っぽい人形の遺書　えぬ・まさたか…38
飼育箱　江口　節…40
僕小説　江里　昭彦…41
陽光　江良亜来子…42
鴨と鶴に捧げる愛歌　榎本　了…42
家路　大池　満…43
編みかけのセーター　大賀　富子…44
秒光　大國キヨ子…45
ためいき　大久保友博…46
黒い雨　大久保紀次…47
波跡　大窪　純子…48
かまきり　大路今日子…49
月光　大田　倭子…50
女の風景　大重　辰雄…51

人間の花
社会の癌
戦意なき戦い
羅漢
哀愁
レフチェンコ葬送曲
ある兵士の戦死
駱駝
年輪
影ぼかし
獣たちが死ぬとき
Sに
波
甦る非在
ああ　千二百十四万円
あれは祭りだったのか
昨日　今日　明日
うぐいす
横浜と房総に旅して
バラのとげのように

大谷　従二…52
大西　一史…55
大貫　喜也…57
大橋三千代…58
大広　行雄…59
鳳　真治…60
岡田　実…61
岡村津太夫…62
岡本美代子…63
岡本　守三…64
奥　重機…66
賀川　幸夫…67
葛西美枝子…69
香山　雅代…70
掛布　知伸…71
片桐　啓志…72
勝又　利賢…73
笠原　昇…74
金子　豊…75
紙谷美智子…76

定石
暁から
棒を棄てた男の話
めまい
キンポウゲ
失速の詩
鳥肌の午後
風信
黙契
脱出不可能
野生
冬虫夏草Ⅲ
いま　抑制を急がねば
影
冬のみち
祈りの時
おのれが詩になる
竹のさやぎを聞きながら
ボクの山と街
馬

川井　照司…76
川口　泰子…78
川島　洋…78
川村　洋一…80
川本　洋子…80
河井　博信…81
河上　鴨…83
神崎　崇…83
北多浦　敏…84
国兼由美子…86
倉橋　良子…87
黒羽　英二…88
黒木　松男…90
小倉　慶子…91
小林　きく…92
小林　京子…94
小林　正一…95
小松　流螢…95
小山　透…97
今　紀子…98

少年と私と森　佐伯　清美…98
夜の底に　嵯峨　潤三…99
今日は杉の木のことを……　斎藤　正敏…101
文法　阪上新治郎…103
錯行の旅　その二　坂本　登美…103
雪　桜庭恵美子…105
虜囚のうたⅨ　澤　龍二…106
松上の鶴　寒川　靖子…107
エピグラム'83　しだのぶお…109
樺太悲歌　島田みちお…110
朝　清水　敦子…111
旅　清水　亮…112
男性器官　塩田　義一…112
蠅取蜘蛛　篠原　道程…113
百鬼抄　杉本　直…114
チェジュ島にて　鈴木豊志夫…114
髪　鈴木美枝子…115
大堂海岸にて　鈴木　義夫…117
逆四角錐の部屋　関口　憲二…118
冷たい夏　関　みのる…119
虚構と愛（Ⅱ）　そらやまたろう…121
詩は生まれる　たかはしさちこ…122
苦悩渚蘇生　たなかけんじ…123
シンメトリー　太附　義和…125
家庭　田中　聖子…126
くやし悔歌　田中　理助…127
朝の鐘　田村　旭…128
白くただ白い　高橋　和子…129
母よ　高橋　國雄…130
兵馬俑　高橋　保雄…131
丸いてのひら　高山　悦子…132
時代を超えるということ　滝川　久…132
扉　篁　幸子…133
ぼくらの季節　竹村晃太郎…133
争いの場　武田　清…134
美しい人　武田　典子…136
映画発想でいろは　谷内　武司…137
姉恋記　谷口　謙…138
繕う　地引　貧…139
ひとときの墓標　司　真…140

初秋の樺戸道路　塚本　静子……141
都市　寺井　喜子……142
ひだまり　寺村　弘子……143
秋　土旬炎凛泥……144
蝶　鳥居三千秋……145
落葉のように　虎岩　壮知……146
天国の絵地図　豊崎　旺子……147
そんな時が……　冨沢　宏子……148
朝のうた　名古きよえ……149
叫ぶもの　名古屋哲夫……150
眼底で踊り狂う悪魔達　直樹　一雄……151
階段　長久保鐘多……152
夫婦蝶　永井　君子……153
「今」の展望　永井　正春……154
遺構夢幻　中岡　淳一……155
油彩「マルセル」幻想　浪本　澤一……156
詩散華　成田　武夫……157
蟬　根来真知子……158
八月十五日　野木　恒三……159
二度とない人生　野村　道子……160
クリシュナの扉　波多野マリコ……162
延命二〇年　長谷川匡一……162
そのもの　長谷部俊一郎……163
ひとり娘を嫁がせて　橋本幸次郎……164
猫が死ぬ時　橋本美恵子……164
バーゲン　浜野伸二郎……165
夢のつまづき　早川　琢……166
情・思い　晴野　詩子……167
たそがれ　日置百合子……167
遠野曲家民宿異聞　日暮　恵一……168
エクスタシイ　日高　三郎……170
××師範附属小学校高等科　檜山　三郎……171
徳山挽歌　東山　円照……172
開かれた体位　府内　一夫……175
知らない街で　福田　操恵……177
大寒　藤　外美子……178
情景の解体　家族　藤井　章子……179
狐　藤岡　正幸……179
運動会スナップ　藤波　透……181
折り紙　藤村　幸親……182

積年の落葉　船木魚太郎…183
昔、「魔法使いサリー」という漫画があって　文屋　順…184
葦笛　ほしのいたる…185
いま　きみたちの内なる青年にそっとささやく　堀込　武弘…186
彷徨　本庄　栄二…187
墓穴への入り方　まつもとれいこ…188
忘れられた話　槇原　茂…189
不安　増田良太郎…190
異国の花　町田　久…190
春眠　松下　和夫…192
ニューヨーク　松下のりを…193
わが宇宙　松本　一哉…194
妄想狂　松永みやお…196
地蔵　松山　豊顕…196
鬼　丸地　守…197
業火　丸本　明子…199
おんな　丸山　勝久…200
用心棒追悼　三田　忠夫…201
早春の光の中で　深山　鏡子…202
藁塚のある風景　宮島　昭二…203
のどかな午後　宮田久美子…204
移情閣の歌　水野　正巳…205
全地球のDJ物語　瑞田　任…206
祭り　武藤　重勝…207
牙　紫　圭子…208
ほんとうの仕事　女川　麗…210
聖者錯乱　森　義男…211
五臓六腑の周辺　谷田部和子…212
夕暮橋　屋中　京子…213
めっけもの　山内　透…214
迷い　山内世紀子…216
午前三時の　ギター　山形　栄子…216
貧しい街　山佐木　進…218
紙魚　山崎　昇…219
昼と夜　山下　延夫…220
季節の断章　山田　寂雀…221
遍路　山田　隆昭…222
泥海の賦　15　山田茂里夫…223

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

夏の虫
雲になった脚
銀杏
自分の手で棺の蓋は閉じられぬ
居（Ⅱ）
グラナダの夜
京の雨と杉の香
郊外電車にて
失われた庭
月ふる宵
宇宙の漣
躁鬱病者
至福の歌
華唱の里
世紀末
夢景
ぬかるみの道
ドシャ降り
海を恋う

山野　一男…225
山本耕一路…226
結城　あや…227
雪原　立樹…228
与三内紗床子…230
世川　心子…230
吉井富美江…232
吉田　幸子…233
吉田　博哉…234
吉田　ノブ…236
吉藤　紫山…237
横森　三雄…237
横山　要彦…239
龍　栄…240
和気　勇雄…241
渡辺　卓爾…242
渡辺美智子…243
渡辺真理子…244
渡辺　洋…246

――資　料――

年刊現代詩集'77～'83（上）への参加者

個人詩集紹介

＜あとがき＞

作品

例言

一、本詩集は全国各地の同人誌・詩誌・文芸誌の支持と協力のもとに完成された各地の代表詩人によるアンソロジーで、掲載作品は一九八三年一月から一九八三年六月末日までに制作されたものです。

一、寄せられた一〇〇〇余篇の中から二一四篇を選んで集録しました。作品は原則として作者名（筆名のものは筆名）の五十音順。（　）は作者在住の都道府県。末尾の太字は所属団体、所属同人誌名です。

一、同人誌・詩誌・文芸誌の主宰者による推薦作品は原則としてすべて掲載されております。

一、第五回年刊現代詩集新人賞は本詩集及び83年上半期版の中から選出されます。発表は一九八四年三月上旬。本人通知、主要新聞紙上及びジャーナル年刊現代詩集等。（**入選**・賞状、及び賞金総額二〇万円、**佳作**・賞状及び記念品）

丘の小道

安芸信広（広島）

おもいおだやかに
空をみつむ
かの木立のごとく
いちずに生きむ

反歌

ゆうべかなしきとき
われは歩むなり
丘の小道を　ただ一人
はるかなるくものゆくえ
いかでか　そを知るべき
きみよ　とうなかれ
「など　きみはかくもうれえる」
われはかなたの空をこがるるなり
ざくろの花よ　もえて　もえて
さきいたるに
わがおもいも　かのごとく
もえて
もえて
まことをもとめんとするなり

菱詩書財団・日本詩集、日本海流

ふるさと

安藤雅郎（香川）

ぬるむせせらぎに　雲が動いて
鮒の影をみつけて歓喜した
曼珠沙華が血をにじませ
藁を燃やした　紫の煙は
回想の流れ
氷った畦道を踏むと
青春のはじける音がした

そして遠い日々

八月の太陽は灼熱

砲声に交った酸性の記憶がある
汗と泥に汚れた母のうつろな眼が
砂金のような米粒を指し
神に感謝の合掌を

過ぎ去った　ふるさととは
鮮やかなステンドグラスか

日本詩人クラブ・四国詩人

沼の化身—八郎太郎物語抄

安　保　賢　一（秋田）

鳴動止まなかった揺籃もおさまり
鬱蒼としげる木下闇に
ゆれる木もれ日のコバルトブルー
岸辺に群がる苔の　繚乱する夏のいろどりをかもす
みずもの瑠璃色
……
樹ぎは枯れ
小鳥も獣たちも姿をみせない　静謐の銀世界
沼だけが碧空を吸いこんで　ひとり青青と覚めているのをみて
おれも目覚めてしまった

はたして　おれは
生きておったのか
死んでおったのか
わずかに目覚めては　また深い眠りに落ちこんだ記憶はあるが……
そうだ
おれは幾億年幾万年の歳月を経て　この嶽の精を集積した沼の渾沌の泥から生まれでた　おろち
手も
足も
耳も
感覚をおぼえる
おれは生きかえったのだ
いや　生まれいでたのだ

○

おおおう
大地は芽ぶく
落葉も朽木も獣の糞もみなかぐわしいにおいを放つ……
……が　なんと水鏡に浮かぶおのれの貌――体内から蒸散する薫香とくらべて眼も鬚も苔でぶ厚く　頭に杉や檜が萌えでて　くねるたびにわさわさゆれる
たしか　手も足もあったはずなのに　首をもたげふり仰ぐ谷間の巨大な倒木に似て　ながながと尾根へつづいている
いつだったか　牛にひとつまみの草をつんで沼の縁をくだってゆくにんげんが　おれの貌をつくづく眺め　突如悲鳴をあげてころがり逃げていった……
そうだ
おれもにんげんになるのだ
眉目秀麗の若者！

岩手県詩人クラブ・橅

自戒像

この一編を陶彫家・増田重幸氏に捧げる

青山隆弘（愛知）

高速道路がどこまで伸びようが
新幹線がどこを走ろうが
少しも近くならない山がある

修那羅という名の孤独な峠は
全く忘れ去られていた
というよりは
樹々の繁みの下に隠れ
陽の光を拒み
生活保護をうけるために仮病をつかった
狡猾な怠け者のように
わざと人目を避けて拗ねていて
ごく限られた相手にしか心を許さないのだ

それがある日突然

先生を殴って注目を浴びた悪童のように
大新聞に写真入りで登場したのだ
物好き記者が物好き読者をけしかける
石仏探訪の記事である

あれからぽちぽちお客がふえた
昨日三人　今日二人
実態調査のケースワーカーみたいに
勿体ぶって根掘り葉掘り矯めつ眇めつ
写真を撮ったりメモをつけたり
夥しい石仏群を調べまわっているが
その中にただ一体
変った奴が立っているのに
気付かず通りすぎる人もいる
わざと気付かぬふりで立ち去る人もいる

その石仏は
お前さん　この勇気
真似られるかいと言わぬばかり
大鼓腹を突き出し怖い顔をして

右手に持った鉄槌で
自分の頭を打ちすえているのだ

その形相の恐しさに
つい　見て見ぬふりをしてしまうのだ
新幹線も高速道路も
敬遠して近寄って来ないのだ

脛に傷持つ人間の
ずるがしこさに
峠はますます孤独になる

それというのもこの俺が
ほとけ顔になれないのが悪いとばかり
自戒の像はさらに我が身を打ちすえて
修那羅は
今日も拗ねている

市民詩集の会・市民詩集

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com